

第三学期始業式式辞

令和6年1月9日

※ 令和6年能登半島地震・・・一日も早い復興を願っております。

「あけましておめでとうございます。」と気持ちよく言えたらよいのですが、新年の到来を喜ぶ状況でないような甚大な被害を伴った災害が起きました。一月一日に発生した令和6年能登半島地震は、マグニチュード7.6、最大震度7と規模が大きく、広範囲に被害が及び、今もなお被害状況の確認が続いています。亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りするとともに、被害にあわれた皆様には心からお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈りしております。西日本豪雨災害時は、各地から多大なる支援や励ましをいただいたと聞いております。個人で募金など行った方もおられると思いますが、本校としても支援、援助に協力したいと考えています。

また、救援物資を運ぼうと準備していた海上保安庁の航空機と旅客機の衝突事故が発生しました。こちらも亡くなられた方がおります。御冥福を心からお祈りいたします。旅客機に乗っていた乗客、乗務員全員が救助され、客室乗務員の落ち着いた行動や指示などに称賛の声が寄せられていますが、乗客自身の対応も素晴らしかったのだと思います。これこそが日頃の訓練の賜物だとだれしもが思ったのではないのでしょうか。訓練以上のことはできないという気持ちで日頃の訓練にも取り組んでください。

※ 災害での教訓の積み重ね・・・すぐに行動できる力を育む。

本校では今年度、防災教育の研究指定を受け、様々なことに取り組んでいます。防災街歩きや高齢者宅への防災点検の実施、防災ソングの作成、保育園とのコラボ、防災グッズの制作など多くのことを行っています。それは、学校全体で防災への意識を高め、すぐに行動できる力を育むためです。文化祭では、東日本大震災からの復興に尽力し、現在は福島県大熊町で原発事故後の復興に尽力している本校出身の細川幸英様の御講演がありました。「防災は挑戦だ」という言葉が耳に残ります。しきりに「災害が起こった後のことを考えておくことが大切だ」と言われておりました。いつ起こるかかわからない災害、規模も場所も不確定の災害で、起こった後のことを考えることはたいへん難しいことだと思います。しかし、被害の規模が大きければ新しい街づくりも大きなものになります。すぐに復興に取り掛かれるように日頃からの計画的な取組が重要だと考えます。

西日本豪雨災害の時、私は八幡浜に住んでおり、隣の大洲市在住の方が被災しており、断水が続いていたので、「何かできることはないだろうか」と訪ねていくと「泥だらけのものを洗ってほしい」というのです。被災すると日常の簡単なこともできなくなるということを実感しました。ボランティアセンターを開設していることも聞き、若い教職員を誘って行きました。市の職員が手際よくボランティアの受付をし、行き先を決め、順番にバスに乗せるのです。行った先でも係の方が、適切に指示され、休憩時間も定期的に取り入れます。こんなにてきぱきと計画的に行うものだと思っていませんでした。ボランティアセンターの運営もこれまでの経験から、最善の方法で行っているということを知りましたし、全国から集まる善意の気持ちが生かされていると感じました。

※ 未来に向けて・・・今までの積み重ねを未来に生かす。

さて、最後の学期、三学期が始まります。今までのことを振り返り、未来に生かすことを考えてください。まさに「繋げ 吉田の未来と みんなのバトン」です。若くても年を重ねても、何かが起こってしまい、後悔することは数多くあります。そのときこそ、過去は変えられないけれど、未来は変えられるという気持ちで前に向かって進んでいくのです。大切なのは、起こったことを踏まえて、次に生かすということです。

令和5年度の総まとめの三学期です。令和6年度につながる準備に取り掛かりましょう。